

1. 全学プログラム報告

1) 各回報告

第1回報告



コミュニケーション・ワークの様子



学内散策の様子



クイズ大会の様子



eラーニングプログラムの様子

■日時

2017年11月25日(土) 10:00-15:00

■場所

聖学院大学エルピス館

■参加者・参加率

80名(案内通知231名)

34.6%

■第1回のねらい「キャンパスを知る」

- ・聖学院に興味をもつ
- ・キャンパスを歩き、エリア環境に慣れる
- ・グループワークに慣れる

■実施内容

参加者はワークの基本となる5~6名の小グループに振り分けられ、名札作成、サイコロを使った自己紹介などをおこなった。

さらに、ゲーム要素を入れたコミュニケーション・ワークで緊張感をほぐすと、最初のグループワークである学内散策へ出発。

各グループはSAの引率で、学内の施設等を巡った。散策から戻ると、「聖学院大学クイズ」の問題を決め、それを模造紙上にイラストやマスキングテープ等で表現した。

初めて出会った者同士が、SAの力を借りながらも目的に向かって協力してワークを行い、それぞれ個性的な制作物を作成することができた。

グループワークを通じ、キャンパスへの親しみを感じてもらえたほか、4月からの友達作りのきっかけにもなる内容であった。

■第1回アンケート結果

Q: 何回目の参加ですか？

1回目	2回目	3回目	4回目	合計	回答率
80	0	0	0	80	100%

Q: 所属する学科は？

政治経済	19名	児童	22名
欧米文化	4名	心理福祉	23名
日本文化	12名	無回答	0名

Q: 全学プログラムについて

質問項目	大いに思う	思う	あまり 思わない	思わない	思う	思わない
本日のプログラムは、参加しやすい日程でしたか？	41 (51.3)	34 (42.5)	5 (6.3)	0 (0.0)	75 (93.8)	5 (6.3)
プログラムには、意欲的に取り組みましたか？	42 (53.2)	35 (44.3)	1 (1.3)	1 (1.3)	77 (97.5)	2 (2.5)
プログラムは有意義でしたか？*	51 (63.8)	28 (35.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	79 (98.8)	1 (1.3)
講師の話は、わかりやすかったですか？	53 (66.3)	25 (31.3)	1 (1.3)	1 (1.3)	78 (97.5)	2 (2.5)
eラーニングの説明は、わかりやすかったですか？	36 (46.2)	38 (48.7)	3 (3.8)	1 (1.3)	74 (94.9)	4 (5.1)
eラーニングに関心を持ちましたか？*	27 (34.6)	48 (61.5)	3 (3.8)	0 (0.0)	75 (96.2)	3 (3.8)
学生スタッフ (SA) の対応は、良かったと思いますか？*	67 (83.8)	12 (15.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	79 (98.8)	1 (1.3)
今日一日を通して、話せる友人ができましたか？	31 (38.8)	37 (46.3)	11 (13.8)	1 (1.3)	68 (85.0)	12 (15.0)
また参加したいと思いますか？	45 (56.3)	32 (40.0)	1 (1.3)	2 (2.5)	77 (96.3)	3 (3.8)

() は割合 (%)、*は無回答ありの項目

Q: 自宅で利用できるインターネット端末は？

項目	人数	割合
パソコン	60	75.0
スマートフォン	78	97.5
タブレット	21	26.3
何もない	0	0.0
その他	0	0.0

※複数回答

Q: 参加してよかった点・楽しかったことは？

グループで校内をまわっていくのが楽しかったです。

とても良い雰囲気だと思いました。

グループで協力してクイズを作ったこと。

会話できてよかった

SAの皆さんが、気さくに話しかけてくださったこと。

※一部抜粋 (全コメント数 70)

Q: 参加して不満に感じた点・改善点は？

時間が長すぎるので午前中で終わらせたほうが良いと思いました。

スクリーンが見辛い事

※一部抜粋 (全コメント数 7)

第2回報告



コミュニケーション・ワークの導入（体育館）



大学生生活のイメージをまとめる（メインワークの様子）



グループ内での談笑



発表の様子

■日時

2017年12月16日（土） 10:00-15:00

■場所

聖学院大学体育館

■参加者・参加率

89名（案内通知294名）

30.3%

■第2回のねらい「キャンパス“ライフ”を想像する」

・大学生活4年間にどんなイベントがあるのか、日々の学内での過ごし方はどうなるのか、自分は何をするのか等々キャンパスライフを想像する

■実施内容

今回も5~6名のグループに振り分けられた参加者は、体育館という会場の特色を生かした身体を動かすコミュニケーション・ワーク「やどかり」などを体験。身体を動かしたことで初対面の緊張もほぐれ、仲間意識が形成しやすくなった。

メインワークは、「キャンパスライフ・ソウゾウMAP」。大学生の生活をキャンパス内だけでなく、社会とのかかわりまで含めて想像し、模造紙に表現（創造）しよう、という試み。4年間の大学生活をまとめたグループ、大学での1日をまとめたグループなど様々に表現した。

社会（さらには将来）と大学生活のかかわりは、SAを含めてイメージすることが難しいようであったが、彼らなりに表現してくれ、発表を通じて共有できた。

■第2回アンケート結果

Q: 何回目の参加ですか？

1回目	2回目	3回目	4回目	合計	回答率
43	44	0	0	87	97.8%

Q: 所属する学科は？

政治経済	13名	児童	18名
欧米文化	8名	心理福祉	27名
日本文化	14名	無回答	7名

Q: 全学プログラムについて

質問項目	大いに思う	思う	あまり 思わない	思わない	思う	思わない
本日のプログラムは、参加しやすい日程でしたか？*	39 (45.3)	43 (50.0)	4 (4.7)	0 (0.0)	82 (95.3)	4 (4.7)
プログラムには、意欲的に取り組みましたか？*	37 (43.0)	44 (51.2)	4 (4.7)	1 (1.2)	81 (94.2)	5 (5.8)
プログラムは有意義でしたか？*	42 (48.8)	42 (48.8)	2 (2.3)	0 (0.0)	84 (97.7)	2 (2.3)
講師の話は、わかりやすかったですか？*	37 (43.0)	47 (54.7)	2 (2.3)	0 (0.0)	84 (97.7)	2 (2.3)
eラーニングの説明は、わかりやすかったですか？*	30 (37.0)	49 (60.5)	1 (1.2)	1 (1.2)	79 (97.5)	2 (2.5)
eラーニングに関心を持ちましたか？*	25 (30.5)	51 (62.2)	5 (6.1)	1 (1.2)	76 (92.7)	6 (7.3)
学生スタッフ (SA) の対応は、良かったと思いますか？	70 (80.5)	16 (18.4)	0 (0.0)	1 (1.1)	86 (98.9)	1 (1.1)
今日一日を通して、話せる友人ができましたか？*	33 (38.4)	43 (50.0)	7 (8.1)	3 (3.5)	76 (88.4)	10 (11.6)
また参加したいと思いますか？	44 (50.6)	39 (44.8)	4 (4.6)	0 (0.0)	83 (95.4)	4 (4.6)

() は割合 (%)、*は無回答ありの項目

Q: 自宅で利用できるインターネット端末は？

項目	人数	割合
パソコン	54	62.1
スマートフォン	80	92.0
タブレット	25	28.7
何もない	0	0.0
その他 (WiiU, DS)	1	1.1

※複数回答

Q: 参加してよかった点・楽しかったことは？

昼食の時に他の人と話せてよかった。

SA が優しかった。話が分かりやすかった。

やどかり楽しかったです

たくさんの人とふれあえて楽しかったです

みんなで制作したこと。

※一部抜粋 (全 71 コメント)

Q: 参加して不満に感じた点・改善点は？

少し長いと感じた。

ヤル気のない人がいてかなしかった。

もう少し遊び心がほしい!!説明も!!ゲーム、アニメなど取り入れてほしい!!

※一部抜粋 (全 6 コメント)

第3回報告



カードに書かれた接続詞を使って自己紹介をする



カードに書かれた接続詞を使って物語を作っていく



グループで作った物語を発表する SA



他のグループの発表を聞いて回った

■日時

2018年1月27日(土) 10:00-15:00

■場所

聖学院大学エルピス館

■参加者・参加率

115名(案内通知340名)

33.8%

■第3回のねらい「言葉による表現力を養う」

- ・文章表現力
(分かりやすさ向上のトレーニング)
- ・協働の体験
(グループで一つの物語をつくる)

■実施内容

グループに分かれた参加者は、メインにつながるカードを利用した自己紹介やコミュニケーション・ワークで空間やグループになじんだ。複数回目の参加者は慣れた様子も見られた。

メインワークは「接続詞つなげて物語」。カードに記入された接続詞を利用して、グループで物語を作っていくというもの。引いたカードに書かれた接続詞に一喜一憂しながら、それぞれが個性を出しつつも協力して物語をつないでいった。出来上がった物語は、いくつかのグループに発表してもらうことで共有した。

時期もあり留学生の参加がみられるこの回であるが、難しいと思われる接続詞を他のメンバーが説明するなどして助け合ってワークを進める姿を見ることができた。

■第3回アンケート結果

Q: 何回目の参加ですか？

1回目	2回目	3回目	4回目	合計	回答率
52	29	30	0	111	96.5%

Q: 所属する学科は？

政治経済	24名	児童	13名
欧米文化	9名	心理福祉	38名
日本文化	24名	無回答	3名

Q: 全学プログラムについて

質問項目	大いに思う	思う	あまり 思わない	思わない	思う	思わない
本日のプログラムは、参加しやすい日程でしたか？	35 (31.5)	66 (59.5)	6 (5.4)	4 (3.6)	101 (91.0)	10 (9.0)
プログラムには、意欲的に取り組みましたか？	43 (38.7)	58 (52.3)	10 (9.0)	0 (0.0)	101 (91.0)	10 (9.0)
プログラムは有意義でしたか？	57 (51.4)	50 (45.0)	4 (3.6)	0 (0.0)	107 (96.4)	4 (3.6)
講師の話は、わかりやすかったですか？	45 (40.5)	62 (55.9)	4 (3.6)	0 (0.0)	107 (96.4)	4 (3.6)
eラーニングの説明は、わかりやすかったですか？*	40 (37.4)	61 (57.0)	6 (5.6)	0 (0.0)	101 (94.4)	6 (5.6)
eラーニングに関心を持ちましたか？*	35 (33.3)	57 (54.3)	10 (9.5)	3 (2.9)	92 (87.6)	13 (12.4)
学生スタッフ (SA) の対応は、良かったと思いますか？*	79 (71.2)	31 (27.9)	1 (0.9)	0 (0.0)	110 (99.1)	1 (0.9)
今日一日を通して、話せる友人ができましたか？	38 (34.9)	56 (51.4)	11 (10.1)	4 (3.7)	94 (86.2)	15 (13.8)
また参加したいと思いますか？	45 (40.5)	56 (50.5)	6 (5.4)	4 (3.6)	101 (91.0)	10 (9.0)

() は割合 (%)、*は無回答ありの項目

Q: 自宅で利用できるインターネット端末は？

項目	人数	割合
パソコン	73	65.8
スマートフォン	100	90.1
タブレット	34	30.6
何もない	0	0.0
その他 (PS4, WiiU, DS)	4	3.6

※複数回答

Q: 参加してよかった点・楽しかったことは？

友人ができそうなくらい楽しかった
SAさんが、説明上手でありがたかった。
地元が近い子と話すことができた。
時間がたつにつれて、ほどけてきてよかった。入学後に生かしていきたい。
※一部抜粋 (全コメント数 97)

Q: 参加して不満に感じた点・改善点は？

ちょっとだけ子どもっぽすぎだと思った。
歩きまわるとき、ちょっと狭いなあと感じました。
もっと他の学生と話をできるレクなどをやるべき
※一部抜粋 (全コメント数 16)

第4回報告



チャペルにて開催



2階席からの眺め



近くの参加者とグループを組んでワークをする様子



動画を見てキャリアについて考える様子

■日時

2018年3月29日(土) 10:00-16:00

■場所

聖学院大学チャペル

■参加者・参加率

530名(案内通知639名)

82.9%

■第4回のねらい「生徒から学生へ移行する」

- ・4月以降のキャンパスライフを想像する

■実施内容

午前中に基礎学力テストを実施。午後から全学プログラムとなる。

メインワークの1つは「キャリアを考える」。題材として「思うは招く」(植松努氏のTED)を鑑賞したあとグループ内、さらには会場全体で感じたことを共有した。

2つ目は、SAによる「高校と大学 ここがちがうよ」と題したプレゼン。具体的に大学生活をイメージして、入学に備えられるようにした。

今回は、入学ガイダンスの一環でもあり、入学予定者のほとんどが参加した。会場の都合や参加人数の多さもあり、グループワークは最小限にとどめたため、会場内の一体化は難しかったが、できるだけ情報を共有していくことに努めた回であった。

■第4回アンケート結果

Q: 何回目の参加ですか？

1回目	2回目	3回目	4回目	合計	回答率
346	70	41	30	488	92.1%

※無回答1名

Q: 所属する学科は？

政治経済	154名	児童	63名
欧米文化	67名	心理福祉	104名
日本文化	87名	無回答	13名

Q: 全学プログラムについて

質問項目	大いに思う	思う	あまり 思わない	思わない	思う	思わない
本日のプログラムは、参加しやすい日程でしたか？	108 (22.2)	308(63.2)	60 (12.3)	11 (2.3)	416 (85.4)	71 (14.6)
プログラムには、意欲的に取り組みましたか？	83 (17.1)	333(68.7)	64 (13.2)	5 (1.0)	416 (85.8)	69 (14.2)
プログラムは有意義でしたか？	107 (22.0)	319(65.6)	53 (10.9)	7 (1.4)	426 (87.7)	60 (12.3)
講師の話は、わかりやすかったですか？	136 (28.0)	313(64.5)	31 (6.4)	5 (1.0)	449 (92.6)	36 (7.4)
eラーニングの説明は、わかりやすかったですか？	115 (23.9)	331(68.7)	30 (6.2)	6 (1.2)	446 (92.5)	36 (7.5)
eラーニングに関心を持ちましたか？	87 (18.2)	328(68.5)	52 (10.9)	12 (2.5)	415 (86.6)	64 (13.4)
学生スタッフ (SA) の対応は、良かったと思いますか？	203 (42.0)	263(54.5)	13 (2.7)	4 (0.8)	466 (96.5)	17 (3.5)
今日一日を通して、話せる友人ができましたか？	110 (22.8)	262(54.2)	82 (17.0)	29 (6.0)	372 (77.0)	111 (23.0)
また参加したいと思いますか？	77 (15.9)	284(58.6)	86 (17.7)	38 (7.8)	361 (74.4)	124 (25.6)

() は割合 (%)、全項目で無回答あり

Q: 自宅で利用できるインターネット端末は？

項目	人数	割合
パソコン	304	62.3
スマートフォン	441	90.4
タブレット	126	25.8
何もない	5	1.0
その他	5	1.0
家庭用ゲーム機 (PS4)	テレビ	

※複数回答

Q: 参加してよかった点・楽しかったことは？

コミュニケーションの時、楽しかった！！
グループワークがたのしかった。
高校と大学の違いを教えてくれたこと
eラーニングの説明がおもしろくて分かりやすかったです。

※一部抜粋 (全コメント数 287)

Q: 参加して不満に感じた点・改善点は？

もっと学内 (大学の話) を深く聞きたかったです。
映像が流れていたが、音が小さくて聞こえなかった。
2階席は微妙に声を通らないため聞き取りづらい
※一部抜粋 (全コメント数 105)

2) 各回参加者データ

■入試別参加率

学科名	第1回 (11/25)	第2回 (12/9)	第3回 (1/27)	第4回 (3/29)	平均 参加率
AO レポート型	7 (70.0%)	8 (47.1%)	10 (50.0%)	25 (89.3%)	66.7%
AO 講義型	23 (41.1%)	19 (26.4%)	34 (39.1%)	93 (87.7%)	52.6%
AO 英語特別	3 (75.0%)	2 (33.3%)	5 (71.4%)	8 (100.0%)	72.0%
推薦 (面接のみ)	42 (37.8%)	50 (45.0%)	50 (38.5%)	130 (87.8%)	54.4%
推薦 (筆記+面接)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	3 (18.8%)	11 (84.6%)	42.6%
留学生	2 (4.9%)	7 (9.0%)	12 (15.8%)	105 (71.4%)	36.8%
一般	—	—	—	159 (83.2%)	83.2%
合計	80 (34.6%)	89 (30.4%)	114 (33.9%)	531 (82.8%)	54.2%

AO レポート型・AO 講義型・AO 英語特別：各 I－VI期

推薦 (面接のみ)：指定校推薦IV期・内部推薦 I期

推薦 (筆記+面接)：クリスチャン推薦/スポーツ推薦/公募推薦 各種 I－II期

留学生：第 1-5 回/AO 方式IV期

一般：A-E 日程・内部一般・内部推薦

■学科別参加率

学科名	第1回 (11/25)	第2回 (12/9)	第3回 (1/27)	第4回 (3/29)	平均 参加率
政治経済学科	19 (26.0%)	14 (13.2%)	26 (21.8%)	176 (86.3%)	46.8%
欧米文化学科	4 (22.2%)	11 (42.3%)	12 (41.4%)	78 (86.7%)	64.4%
児童学科	22 (61.1%)	18 (45.0%)	13 (26.5%)	65 (92.9%)	60.5%
日本文化学科	12 (27.3%)	16 (33.3%)	25 (44.6%)	93 (72.7%)	52.9%
心理福祉学科	23 (38.3%)	30 (41.1%)	38 (45.2%)	119 (88.1%)	59.7%
合計	80 (34.6%)	89 (30.3%)	114 (33.5%)	531 (83.1%)	54.1%

3) SA活動報告

■SA(スチューデント・アシスタント)とは

スチューデント・アシスタントは、教職員のサポート業務に就く学生アルバイトの名称である(以下 SA という)。入学前準備学習の SA は、全学プログラムに参加した新入予定者が、楽しく積極的に取り組めるよう、グループワークのサブファシリテーターとして勤める。入学前準備学習 SA として参加(勤務)するためには、全学プログラム1週間前に行う研修会に参加することが条件となる。研修会は、各回のワークを事前に行うことで、どのように参加者をサポートするか、楽しめるワークにするには、どんな工夫が必要かなどを、教職員を交えて SA 同士で体験し、考える場になっている。また、「仕事」という意識を大切にすよう研修しており、「働く」ということに対しての心構えをもたせることを目指している。SA は全学プログラムだけでなく、参加者の誘導、受付等プログラムの開始前からかかわる。また全学プログラム終了後には、会場の片付けや活動の振返りを行う。全学プログラムで気づいた点や、SA 自身の動きなどを振返ることで、次のプログラムの改善だけでなく、SA 個人の成長を促している。

■SAの所属学科

学科/日程	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
政治経済	1	3	0	0	4
欧米文化	2	2	1	0	5
児童	1	2	4	1	8
日本文化	3	0	1	9	13
こども心理	5	2	4	0	11
人間福祉	3	0	0	1	4
合計	15	9	10	11	45

■SA研修会報告

講師：奥 富美子

職員：学務部学生課ラーニングセンター担当 2名

第 1 回研修会報告



研修で全学プログラムの概要を聞く様子



コミュニケーション・ワークを体験する様子



発表練習をする SA



最後にグループごとにふりかえり

■日時

2017年11月18日(土) 10:00-16:00

■場所

聖学院大学4号館会議室

■目的

- ・参加者が「聖学院大学クイズ」を作成するために、学内のどんな場所へ案内するかを考え、シミュレーションする。
- ・「聖学院大学クイズ」をグループメンバー全員で作成するためには、どんな声かけで参加しやすくなるかを考える。

■実施内容

年度初回ということもあり、初めて SA となった者も多く、改めて入学前準備学習の趣旨および目的、SA として果たすべき役割など基本の説明に多くの時間をかけた。また、大学の改組もあり、迎える入学者がそのまま自分の後輩でない学部・学科もあることから、大学としての今後の方針についても渡邊先生より説明をいただいた。初回のワークは天気によって左右されることもあり、通常のワークのほか、雨の日用のワークについても確認する必要がある、予定を超過しての研修となった。SA 経験者を中心にワークを確認していった。SA 経験者(特に4年生)から下級生の引き継ぎをどう進めていくのか、今年度の課題を確認した回であった。

第2回研修会報告



話を聞いて役割を確認する SA



体育館を想定したコミュニケーション・ワークの練習



発表練習をする SA



イメージで作ったキャンパスライフマップ

■日時

2017年12月9日(土) 10:00-15:00

■場所

聖学院大学4号館会議室

■目的

- ・体育館でワークするイメージをもって、サポート内容を考える
- ・メインワークを体験し、プログラムを通して参加者へ、どのような声かけ・動き方ができるか等具体的なサポート方法を考える

■実施内容

久しぶりに体育館が会場となり、不慣れた環境を前に、会場の状況と当日のイメージを共有することに力を入れた。メインワークとなった「キャンパスライフMAP」も初のワーク。キャンパスライフそのものはイメージできても、社会とのかかわり、広がりや、卒業後の生活にどうかかわるか、ということ意識することは在校生であっても難しいということが分かり、研修から当日に向けてかなり修正が必要となったが、改善に向けて SA が教職員とともに考えてくれた機会でもあった。また休憩の時間には、4年生 SA が自主的に下級生 SA に対して自己紹介をする企画を実行するなど、働きかける様子が見られた。本番当日の振り返りでは、4年生と下級生の意識の違いや温度差を感じる一幕もあり、今後の課題が露わになった回でもあった。

第3回研修会報告



カードに書かれた接続詞で短文を作る様子



グループごとにアイデアを出し合う様子



作った文章を SA 同士で読みあう様子



コミュニケーション・ワークを体験する様子

■日時

2018年1月20日(土) 10:00-15:00

■場所

聖学院大学4号館会議室

■目的

- ・接続詞を使ったワークを体験し、どの程度物語の作成が参加者にできるか考える
- ・日本語の接続詞を留学生の参加者に説明するには、どのようにしたらよいかを考える

■実施内容

同じメインワークを実施した2016年度第3回での経験を踏まえつつ、課題の再確認、新メンバーへの共有を図りつつ、研修を行った。

年度内3回目のSA研修ではあるが、初めての者もあり、また、前回までの働き等で課題を持って臨んだ者もあり、SAとしての役割や研修全体で目指すべき点を確認しながらの研修会となった。

実際のワークでは、入試の関係で、留学生参加者が一定数見込まれる中、日本語の「接続詞」を使ったワークにどう取り組ませるか全体で話し合うなど、当日に向けてルールの確認、改善などを中心に行った。

今回で4年生はSAを卒業となる。3月の次回、さらには来年度に向けて新生SAをどう育成していくのか、教職員の課題を確認した回でもあった。

第4回研修会報告



4年生が卒業し、新体制となったSA



グループごとにチャペルで発表する内容を考える様子

考えた内容を全体に共有する準備



チャペルでの発表を想定して、全員で意見をまとめる

■日時

2018年3月22日(木) 10:00-15:00

■場所

聖学院大学4号館会議室、チャペル

■目的

- ・チャペル内での誘導や声かけなど、これまでとはことなる全学プログラムの会場で、どのように動き、参加者のために動くことができるのかを考える
- ・チャペル内で実際の動きを想定し、サポートする具体的なイメージを持つ
- ・「高校と大学の違い」を参加者に伝えるために、どんな違いがあるか考える。また、スムーズに発表するための工夫を考え、発表原稿を作成する

■実施内容

第4回目の会場はチャペルとなる。また500名を超える参加者が見込まれることもあり、SAはこれまでとは別の想像力や声掛けを求められる状況となる。これらを踏まえて、研修では、前半ではSAによるプレゼン「高校と大学の違い」の準備を行い、後半では、実際の会場であるチャペルに移動して、当日の誘導や声掛けを疑似体験しながらイメージを膨らませた。

また、今回は初めて第4回目の全学プログラム後に学科プログラムを実施する学科があったため、その会場への誘導についても入念に準備を行った。

各担当者は、それぞれの持ち場においてどう動き、何に注意するべきかを意識して参加してくれた。

4) 4期間(2014-2017 年度)を終えて

講師より

ファシリテーター：奥 富美子

入学前から始める聖学院の学び
(入学前準備学習 全学プログラム)

**私たちの仕事は、
新入生の学びが豊かなものになるように
サポートすることです。**

「入学前から始める聖学院の学び」は、
聖学院大学に入学が決まった人が
4月を心待ちにし、スムーズに入学～大学生活に移行できる
よう、入学前にその準備をするものです。

「同級生となる人々と入学前から知り合い、友達づくりをし
たり」「大学関係者と触れ合うことで、大学への親近感を増
したり」を目指しています。

大学との距離をちぢめ、自分の聖学院大学生活はおもしろそ
うだと想像できるよう、ワクワク気分を持てるようにお手伝
いするのが、私たちです。

第1期(2014年)にSA(Student Assistant)をつとめてくれた学生たちは、4年間の聖学院大学の生活を終え、今年3月に卒業していった。それぞれが社会人として頑張っていることと思う。SA経験が、個々の成長に大きく影響したことは間違いない。第1期スタートにむけたSA募集の際は、「学内バイトで稼ぐ」ことだけを目指し、ぼんやりとしたままやってきた学生たちだった。しかし、人は変化する。変化とは成長だ。「私、営業職で就職活動しています」などという言葉が聞くと、当時全く想像していなかった。希望通り営業で内定をもらったことを嬉しそうに話してくれたのは、一人や二人ではない。

彼らの変化をみるにつけ、「経験できる機会・場」を提供することの重要性を思う。SAたちは入学前準備学習の仕事経験を通して飛躍的に自分の能力を伸ばしていった。参加者アンケートで、「学生スタッフ(在生)の対応は良かったですか?」の問いに、「大いにそう思う・そう思うで99%超」との結果を毎回得てきたのは、SAの仕事ぶりがよ

かったからに他ならない。

4期間を終えて、SAの活動と成長を中心に振り返る。

プログラム体系

毎期第1回から第4回までの4回を通して、「大学キャンパスについて知る」→「キャンパスのなかでどう過ごすのか、キャンパスライフを想像する」→「言葉による表現力を養う」→「高校生から大学生へ、生徒から学生へと移行する」との流れをつくった。

SA担当が単月であっても、この全体の流れを意識しつつ参加するようにSAへの説明を毎回おこなった。

「事前研修に出られなければ、当日のシフトには入れない」を徹底した。事前研修では、業務分担とそのやり方を説明し、当日を想像させる。やったことのないことに挑戦するのは仕事そのものだ。仕事に対する「目標設定」をし、それを宣言する。事後のふりかえりの際に、目標と照らしてどうだったか、自分自身の成長度合いを確認するようにした。

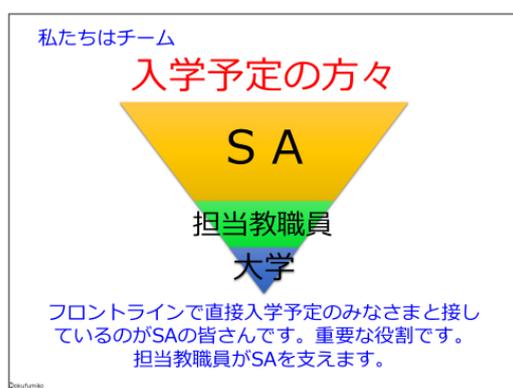
当日のワークについて予行演習を行い、高校生支援がスムーズにできるように試しておくことで、不安を軽減させるのも事前研修のねらいだ。ワーク進行に関する工夫、当日使う掲示物の制作など、彼らとの意見交換を交えてプログラムを創り上げていった。SAを当事者にすることで、彼らは育つ。

仕事という経験

学生には、SA業務は「仕事」であることを強く、伝え続けた。「ボランティア活動でも、サークル活動でも授業でもない。仕事だ」と。こう伝えておくと、「仕事」への意識が高まり、ふりかえりでの発言も、お客様視点

で述べるように変わっていった。そして、仕事をする仲間同士全員で汗水を流し、終えたときの心地よい疲れと達成感は、「仕事」をして得た喜びである。

大人数を、安全第一で動かすにあたり、SA がいかに重要な存在であるかも何度も伝えた。フロントラインで直接入学予定者（お客様）と接しているのは SA だからだ。当日 SA を支える職員はわずか5～6人だ。私がファシリテーションするだけでは、プログラムは進行しない。SA と入学予定者のかかわりがあるのはじめて、プログラムが生きる。



SA はだれもが重要な存在で、必要とされている人たちである。「自分は重要な存在なんだ」と認識することを求めた。「SA は大勢いるから自分一人くらい手を抜いてもいいだろう、は許されない」ことも、コンプライアンスに関する注意点も、聞き飽きたよと言われるくらい何度も説明した。「仕事をする人」を養成する重要ポイントである。

おわりに

毎期の全学プログラム全4回の構成や内容の企画開発、各回に導入するワークの企画開発、ワークシートなどツール類の開発と制作、ファシリテーションは私が担当し

たが、企画したものを具現化するのは全員である。参加してくださった入学予定者の満足感を目指し、内容の充実度を高めていったのは、私、SA、スタッフの三者間のチームワークによって成し得たものである。

担当職員より(今年度のふりかえり)

2017年度は卒業年次となる4年生SAが多く、その多くは1年次から継続して活躍している学生たちだった。これまでのSA経験から、彼らはグループワークで入学予定者との距離の取り方や、かかわり方のポイントを見つけ、力をつけてきた。彼らの働きぶりがあるの入学前準備学習であることを考えると、今年度は「引き継ぎ」が重要なキーワードになった。

職員も、SA 同士で引き継ぎができるよう、二人一組となる SA の組分けや配置場所に配慮した。一人で業務に就きたい SA もいたが、新規 SA も多くいる中で運営に支障がないよう配慮するためには気持ちに添えない場面も多かった。

そうした中でも自分の仕事をしっかりと果たしていったことで、後輩たちだけになった3月の入学前準備学習では、4年生から受け継いだことと、自分たちがやりたいことを折衷しながら、後輩 SA たちは新たな力を培っていったように思えた。

職員は SA 一人ひとりに目を向け、各々の伸ばしたい力、足りない力に寄り添いながらサポートした。それは「一人を愛し、一人を育む。」という大学の想いを体現化した一つだと思う。

次年度の入学前準備学習は、新たな事務体制での実施になる可能性がある。SA たちの成長していく姿と併せながら、さらなるプログラムの発展に期待したい。